

# 地域交通戦略を踏まえた最近の動向について

# 地域交通戦略を踏まえた最近の動向について

- 本年2月に策定した富山県地域交通戦略において、「関係者でともに取り組む施策」として以下の施策を位置付け（本部会に特に関係する施策は赤線箇所）
- 本部会に特に関連する施策の最近の動向は次ページ以降のとおり

## 関係者でともに取り組む施策

### 地域の活力・魅力向上のための「投資」

- 1 鉄軌道等のサービスレベル向上に対する投資
  - (1) 鉄軌道の混雑緩和等のための輸送力の強化
  - (2) 快適性・環境性の向上のための鉄道車両の導入、  
鉄軌道設備の更新・改良等
  - (3) キャッシュレス決済の導入
  - (4) サービスを支える担い手の確保・育成
  - (5) 教育・子育て・福祉等を支える鉄軌道サービス等の確保
- 2 まちづくりと連携した駅の機能強化に対する投資
  - (1) 駅を中心としたまちづくりや駅の交通結節機能の強化
  - (2) 市町村のまちづくりの拠点となる駅の空間を活用した  
地域拠点機能の強化
  - (3) 駅施設のバリアフリー化
- 3 地域内のモビリティサービス（バス・タクシー・新モビリティサービス）に対する投資
  - (1) 新たなサービスの立上げなど地域主体の取り組みの推進
  - (2) サービスを支える担い手の確保・育成等
- 4 ネットワーク内の移動・交流の創出に対する投資
  - (1) ネットワーク内のサービス等の連携（MaaSの充実等）
  - (2) とやまロケーションシステムの充実・利活用
  - (3) 地域交通に関するデータ連携基盤の構築

### 地域の活力・魅力向上のための「参画」

- 5 利用者としての参画
  - (1) 地域交通を中心としたライフスタイルへの転換
- 6 支え手・担い手としての参画
  - (1) 地域交通の支え手としての積極的な参画
- 7 沿線まちづくりとしての参画
  - (1) 駅を拠点としたまちづくり
  - (2) 拠点駅の駅空間等を活用した事業活動・社会活動
  - (3) 地域の魅力向上につながる駅設備・車両のデザイン性向上
- 8 地域交通サービスとの連携等を通じた参画
  - (1) 各文化・商業施設や観光地等における地域交通の運行情報等の案内
  - (2) 沿線地域の関係者と連携したMaaSアプリでの新たなデジタル乗車券の企画・作成
  - (3) 各地域のイベントと連携した地域交通の誘客や観光資源としての活用
  - (4) 地域交通サービスによる観光客の移動環境の整備
  - (5) その他、他分野・他業種と地域交通サービスの連携の検討

「富山県地域交通戦略」から抜粋

**地域の活力・魅力向上のための「投資」について**

# 城端線・氷見線再構築の取組み

施策1-(1)、1-(2)、1-(3)関係

○今年2月に、地域交通法の改正後の全国第1号の認定を受けた計画に基づき、再構築事業を実施中

## 再構築に向けた検討の状況

### ○城端線・氷見線再構築検討会（R5.7月設置）

将来に向けた持続可能な路線を実現するため、利便性・快適性の向上などの取組みを定めた再構築実施計画を策定

### ○城端線・氷見線再構築会議（R6.4月改組）

R6.4.30 交通系ICカードの対応

⇒R7年度中にサービス開始予定

R6.7.29 新型鉄道車両の検討

⇒R6年度内を目途に車両デザインを取りまとめ

## 城端線・氷見線鉄道事業再構築実施計画

◆計画期間 令和6年2月～令和16年3月

◆事業主体 JR西日本からあいの風とやま鉄道に変更（計画開始から概ね5年後を目途）

◆利便性・快適性の向上策

○新型鉄道車両の導入 ○交通系ICカードの対応

○運行本数の増 ○高岡駅での城端線・氷見線の直通化



R6.2月 国土交通大臣  
第1号認定

# 鉄軌道の混雑緩和等のための輸送力の強化（城端線・氷見線）

施策1-(1)関係

- 新型車両の導入やあいの風とやま鉄道への事業主体の移行後、あいの風とやま鉄道 高岡～金沢間（63本）並みの運行本数を実現（城端線、氷見線ともに60本程度/日（現行：城端線 42本/日、氷見線 36本/日））
- また、日中のパターンダイヤの導入など、利用しやすいダイヤについて検討

## 現行ダイヤ

城端線（城端方面）		氷見線（氷見方面）	
5時	27 46	5時	56
6	9	6	48
7	0	7	40
8	1	8	40
9	3	9	43
10	10 59	10	
11		11	12
12		12	3
13		13	47
14	30	14	
15		15	22
16		16	23
17		17	27
18	12 47	18	15 52
19		19	41
20	19	20	22
21		21	35
22		22	52
23	10	23	
21本		18本	
現行：上り下り合わせて42本		現行：上り下り合わせて36本	

## 移行後のイメージ

運行本数の増  
あいの風とやま鉄道高岡金沢間  
(現行：上り下り合わせて63本)  
並みの運行本数



日中のパターンダイヤの導入など  
利用しやすいダイヤ

参考：あいの風とやま鉄道

<高岡発→富山方面>		改正前		パターンダイヤ導入後	
9時		47		45	
10時	07	50		15	45
11時	14	47		15	45
12時	24	48		15	45
13時	24	41		15	45



※上記ダイヤは、R5.11月現在の高岡駅発の平日ダイヤ

(出典) 第4回城端線・氷見線再構築検討会資料（令和5年11月29日開催）等をもとに作成

# 鉄道車両の導入（城端線・氷見線）

施策1-(2)関係

- 乗り心地の改善、速達性の改善、カーボンニュートラルへの要請に応える環境性能等を考慮した新しいタイプの車両を導入
- 車両前面にオリジナルデザインを取り入れるなど、デザインを工夫することにより、利用者が路線に愛着が持てる「乗りたくなる路線」を目指す。（城端線・氷見線鉄道事業再構築実施計画より）
- R6.9月から作業チームにおいて、車両の内外装（車両の前面デザイン、車体のカラーリング、内装）のデザイン案の検討を開始（年度内を目途にとりまとめ）



**34両（現車両24両、  
10両増車）を  
新型車両に置き換え**

（城端線・氷見線再構築会議の  
作業チームで車両の内外装の  
デザイン案について検討）

現在の鉄道車両の外装、内装



# キャッシュレス決済の導入（城端線・氷見線、万葉線）

施策1-(3)関係

- 城端線・氷見線では、全国で利用可能な交通系ICカード（ICOCA）の対応改札機を全駅に設置予定（R7年度内に利用開始予定）
- 万葉線では、9月28日よりICOCAを全車両（10台）に導入



ICカード対応改札機

（出典）第1回城端線・氷見線再構築会議  
（令和6年4月30日開催）



万葉線ICOCA導入のお知らせ

（出典）万葉線HP



万葉線IC入場機（出口にも設置）

# 鉄軌道の混雑緩和等のための輸送力の強化（あいの風とやま鉄道）

施策1-(1)関係

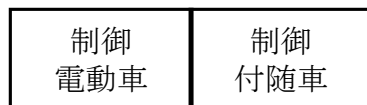
- 現在 2 両編成で運用している車両の一部を 3 両編成で運行するために必要な「中間車両」を新造
- 富山～高岡間において、パターンダイヤを日中の時間帯で導入（R6.3.16～）
- 現在、県東部を中心としたパターンダイヤの拡充に向け、検討・調整中

## 中間車両の新造

### <イメージ>

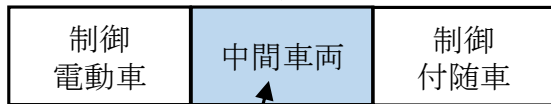
【現行（2両）】

定員：約 250 人



【増車後（3両）】

定員：約 400 人  
(想定)



定員 150 人程度  
モーター、運転台、トイレ、パンタグラフ等の  
の装備なし

### <スケジュール>

R6年度 車体・台車の設計、モニター装置のソフト改修等  
R7年度以降 中間車両を 3 両製造

(出典) 第23回あいの風とやま鉄道利用促進協議会（令和6年6月20日開催）

## パターンダイヤの実施

### <高岡発→富山方面> 改正前

9時		47
10時	07	50
11時	14	47
12時	24	48
13時	24	41

### パターンダイヤ導入後

9時		45
10時	15	45
11時	15	45
12時	15	45
13時	15	45

### <富山発→高岡方面> 改正前

10時	13	46
11時	26	43
12時	26	50
13時	14	47

### パターンダイヤ導入後

10時	20	50
11時	20	50
12時	20	50
13時	20	50

(出典) 令和5年12月15日付けあいの風とやま鉄道(株)プレスリリースを一部修正





# 駅施設のバリアフリー化（あいの風とやま鉄道）

施策2-(3)関係

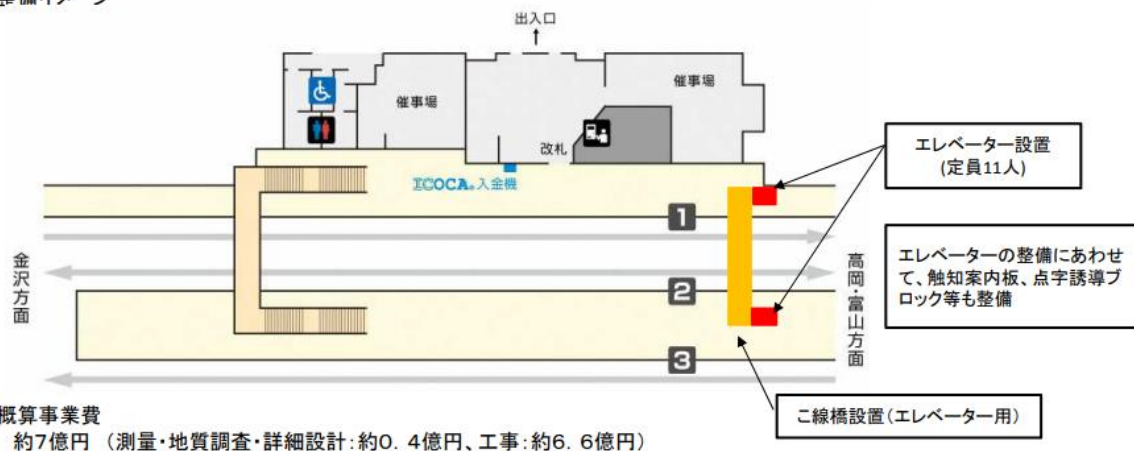
- 呉羽駅北口改札の整備に合わせ、エレベーターを設置（R6.3月供用開始）
- 福岡駅でもエレベーターを整備中(R6年度供用開始予定)

呉羽駅北口改札



福岡駅

- 1 駅概要**  
 <所在地> 富山県高岡市  
 <駅構造> 2面3線(単式ホーム1面1線、島式ホーム1面2線)  
 <乗降人員> 2,004人/日(平成29年度から令和元年度の平均)
- 2 事業内容**  
 福岡駅にエレベーターこ線橋を新設するもの  
  
 令和3年度 : バリアフリー基本構想策定(高岡市)  
                   基本設計(高岡市補助により実施)  
 令和4年度 : 測量・地質調査・詳細設計  
                   (国・県・高岡市補助により実施)  
 令和5年度~ : 工事着手予定(令和6年度に供用開始予定)
- 3 整備イメージ**



- 4 概算事業費**  
 約7億円 (測量・地質調査・詳細設計: 約0.4億円、工事: 約6.6億円)

(高岡市HPより)

- 今年度より新たに1自治体が地域公共交通計画、2自治体が立地適正化計画の策定に着手
- 県も、各市町村の法定協議会における協議に参画

## ①県内市町村の地域公共交通計画と立地適正化計画の策定状況 (R6.11末時点)

### ・地域公共交通計画の策定状況

#### 12市町・1地域が策定済み

富山市、高岡市、射水市、魚津市、氷見市、滑川市、黒部市、砺波市、小矢部市、南砺市、上市町、朝日町、城端線・氷見線沿線4市  
現在策定中の自治体

立山町

### ・立地適正化計画の策定状況

#### 9市町が策定済み

富山市、高岡市、射水市、魚津市、氷見市、黒部市、小矢部市、入善町、朝日町

現在策定中の自治体

滑川市、立山町

## ②立地適正化計画の例 (魚津市)

第2章 2. 目指すべき都市の骨格構造 (抜粋)  
市内の5つの鉄道駅を中心としたまちづくりを進めます。  
(中略)

コンパクトな都市構造とし、中心拠点を中心に基幹的な公共交通軸を形成し、市内各地区を鉄道とバスでつなぐネットワークを構築・維持することによって、持続可能で活力のある都市を目指します。



駐輪場の改修整備



別棟であった観光案内所を駅舎内に移転リニューアル

地域の活力・魅力向上のための「参画」について



# 地域交通を中心としたライフスタイルへの転換 （「電車・バスで行こう！」キャンペーン）

施策5-(1)関係

- 公共交通を実際に利用してその便利さや快適さを感じていただくため、「電車・バスで行こう！」キャンペーンを実施（開催期間：10月21日～11月10日）
- キャンペーン期間中、電車やバスが90分乗降・乗換え自由なデジタル乗車券をスマートフォンアプリ「my route」で販売
- 公共交通のメリットを伝える動画をSNS等で配信しキャンペーンをPR
- R6年度中に第2弾を開催予定



キャンペーンPRグラフィック



デジタル乗車券イメージ



キャンペーンPR動画「電車通学のメリット」編  
（再生回数：約2.6万回（11月末現在））



# 地域交通の支え手としての積極的な参画（でんしゃ・バスまち店舗）

施策5-(1)、6-(1)関係

- 県内ファミリーマート24店舗と連携し、店舗内のイートインスペースを最寄り電停・バス停の待合所とする「でんしゃ・バスまち店舗」を開設（7月22日～）
- 各店舗に「とやまロケーションシステム」を活用したQRコードを設置し、最寄りの電停・バス停のリアルタイム運行情報を確認可能に
- 提携店舗の拡大に向けて、他の沿線店舗等に働きかけを実施中



店舗入口ステッカー



店内のぼり



「でんしゃ・バスまち店舗」開設式（7月22日）



店内ポスターの例（店舗内でリアルタイムの運行情報を案内）



# 沿線まちづくりとしての参画

施策7-(1)、7-(2)、7-(3)関係

- 沿線の高校生がデザインした車両ラッピング事業、公共交通を身近に感じ、魅力を再発見するイベント「とやまレールライフフェスタ」（会場：富山駅、越中八尾駅）開催を支援
- ※地域の関係者が連携・協働して行う、駅空間・駅前空間におけるイベント開催、駅施設・車両等のイメージアップ・デザイン性向上に係る取組み等を支援するため、R6年度に「交通まちづくり参画促進事業費補助金」を創設

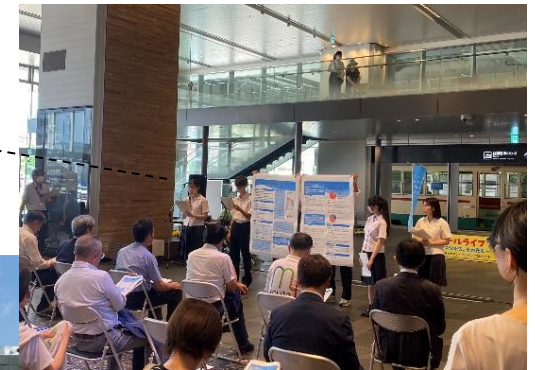
富山北部高校情報デザイン科の生徒がラッピングデザイン、車両基地で仕上げのフィルム施工



(出典：富山地鉄アテンダントブログ)

フローラルとやま実行委員会「フラワーデー（花贈り日）」に合わせた車両ラッピング(R6.2～3月)

富山駅では、富山高校の生徒が公共交通の利用促進案を発表



(出典：とやまレールライフ・プロジェクト【公式】X)

とやまレールライフ・プロジェクト「とやまレールライフフェスタ」開催の様子 (R6.8.4)



# 各地域のイベントと連携した地域交通の誘客や観光資源としての活用 (北陸三県並行在来線周遊促進キャンペーン)

施策8-(3)関係

○北陸新幹線金沢・敦賀間の開業を契機に、北陸三県と並行在来線各社が連携し、並行在来線を利用したキャンペーンを展開

## ①北陸三県連携観光列車の特別運行 (R6.10.12~10.14)

- あいの風とやま鉄道の観光列車『一万三千尺物語』が3日間限定で北陸三県をつなぐ特別運行(普段は走行しない石川・福井へ乗り入れ)
- 定員120名(40名/コース×3コース)に対し約4倍の応募(449名)
- コース毎に、車窓からの美しい景色のほか、出発駅・停車駅での趣向を凝らした特別なおもてなしや旬の食材を使用した特別な料理などを提供



## ②共通フリー切符の販売 (R6.3.16~R7.3.31)

- 北陸三県並行在来線区間が2日間乗り放題の切符
- 開業後8か月で約12,000人の利用



## ③周遊デジタルスタンプラリーの実施 (R6.10.18~R7.2.28)

- スマホアプリ(位置情報連動型ゲーム「駅メモ!」シリーズ)を活用して北陸三県の並行在来線の駅や沿線の観光スポットを巡るスタンプラリー

